

# 履修モデル（2017年度以降入学者） 《 GBEEP学生 》

この履修モデルは、みなさんが履修計画を立てるうえでの目安として活用してください。

授業科目のなかには、前提となる授業科目の単位を修得済みでなければ履修できないものがあります。また、前提となる授業科目を履修済みでなければ履修できないものもあります（この場合、単位未修得であっても履修は可能です）。詳細は【履修上の注意】を参照してください。

交換留学を検討している学生は、大学の交換留学説明会に参加するなど、積極的に情報収集をしてください。なお、3年次以上の交換留学については、1～2年次中に学部教育科目の必修単位を修得済みであることが前提条件です。

### 【履修上の注意】

1. 以下の授業科目（学部教育科目）は、前提となる授業科目の単位を修得済みでなければ履修することができません。

授業科目名	前提となる授業科目名
簿記論Ⅱ	簿記論Ⅰ
管理会計論Ⅱ	管理会計論Ⅰ
国際会計制度	会計学概論
English for Business	経営学概論

2. 以下の授業科目（全学教育科目・学部教育科目）は、前提となる授業科目を履修済みでなければ履修することができません。

授業科目名	前提となる授業科目名
統計学Ⅱ-A	統計学Ⅰ-A
原価会計論	会計学概論、簿記論Ⅰ
人的資源管理論	経営学概論、キャリア・マネジメント
財務会計論Ⅰ	会計学概論、簿記論Ⅰ・Ⅱ
財務会計論Ⅱ	会計学概論、簿記論Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ
管理会計論Ⅰ	会計学概論
管理会計論Ⅱ <sup>(注1)</sup>	会計学概論
生態会計論	簿記論Ⅰ
マクロ会計論	簿記論Ⅰ
財務分析論	経営学概論、会計学概論、財務会計論Ⅰ
戦略会計論	会計学概論、原価会計論、管理会計論Ⅰ・Ⅱ
オペレーションズ・リサーチ	線形代数Ⅰ・Ⅱ、経営科学概論
マーケティング・サイエンス	統計学Ⅱ-A
経営数学	微分積分Ⅰ・Ⅱ
国際会計制度 <sup>(注2)</sup>	簿記論Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ・Ⅱ
English for Business <sup>(注3)</sup>	(2年次までの) 英語科目

(注1) 管理会計論Ⅰの単位を修得済みでなければ履修できない。

(注2) 会計学概論の単位を修得済みでなければ履修できない。

(注3) 経営学概論の単位を修得済みでなければ履修できない。

## 履修モデル: Global Business and Economics EP

### 経営学主専攻・経済学副専攻

社会的ニーズと育成する人材: グローバルに事業展開する企業では、経営学と経済学の両方の専門知識を持ち、英語で自由にコミュニケーションをとる能力が求められている。専門的知識(経営学と経済学)と高いレベルの英語運用能力を有し、グローバル企業で活躍できるビジネス・パーソンを育成する。

科目群		学部教育科目98単位以上				
卒業132単位以上	全学教育科目 34単位以上	専門基礎科目	専門基幹科目	専門応用科目	GBE科目	演習科目
1年次	英語(4) 統計学 I A(2)	【経営系】 経営学概論(2) 会計学概論(2) 経営科学概論(2) 【経済系】 ミクロ経済学入門(2) マクロ経済学入門(2)	【経営系】 キャリア・マネジメント(2) 簿記論 I (2) 経営情報論(2)		Basics of Business Accounting(2)	経営学リテラシー(4)
2年次	英語(4) 初修外国語(2)		【経営系】 経営戦略論(2) コーポレート・ファイナンス(2) 【経済系】 ミクロ経済学1&2(4) マクロ経済学1&2(4)	【経営系】 経営管理論(2) イノベーション・マネジメント論(2) 財務会計論 I (2) 財務会計論 II (2) マーケティング・サイエンス(2) 【経済系】 ゲーム理論(2) 産業組織論(2)	アジアグローバル経営基礎(2) International Economics(2) Global Economy(2)	基礎ゼミナール(2)
3年次	高度全学教育科目	海外学修科目(2) (留学、海外インターンシップ、英語討論等)				
				【経営系】 国際経営論 I (2) 国際経営論 II (2) 国際人的資源管理論(2) 国際イノベーション・マネジメント論(2) 産業分析(2) 流通論(2) 【経済系】 国際貿易政策(2) 国際金融(2)	International Business(2)	ゼミナール I (4)
4年次				【経営系】 戦略会計論(2) ビジネスゲーム(2) 国際会計制度(2) 国際市場戦略論(2) 国際経営史(2) 【経済系】 途上国経済(2) 国際環境経済論(2)	City Marketing and Tourism(2)	ゼミナール II (4)

卒業後のキャリア・イメージ

【日本企業】総合商社・製造業・金融機関など、【外資系企業】製造業・金融機関など、【国際機関職員】【国内外の大学院への進学】